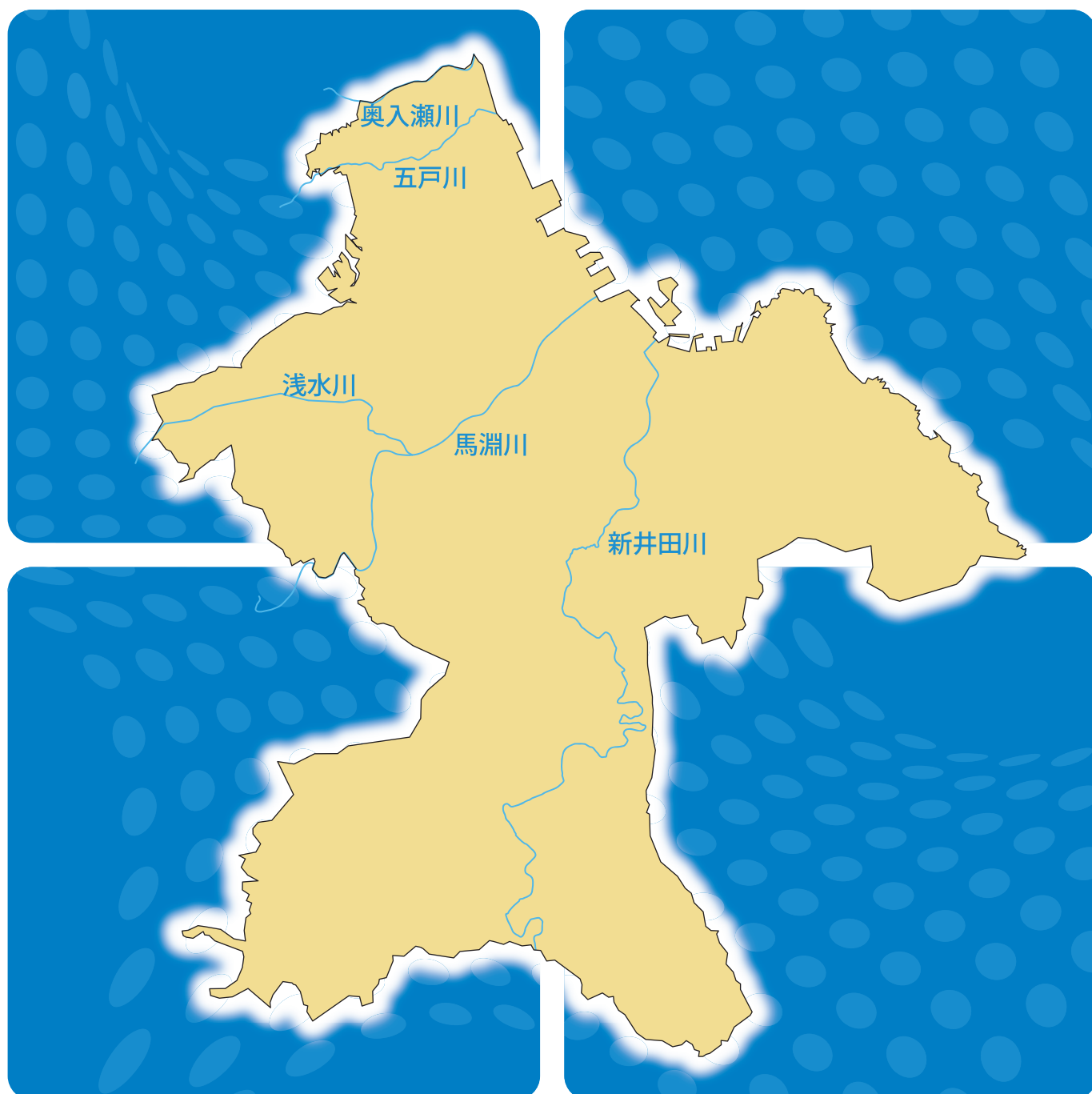




風水害・土砂災害から 身を守るために



1 はじめに

この冊子は、大雨など災害が発生する可能性が高まったときに、身を守るための適切な行動に移すための情報をまとめたものです。

本冊子を活用し、いざという時あわてずに行動できるよう家族や地域で話し合っておきましょう。

●冊子の活用方法

本冊子には、次の内容を掲載しています。各ページを参考に日頃から災害に備えましょう。

災害を知る(想定される災害の種類や発生のしくみについて)

P2 参照

日頃から災害に備える(日頃からできる家庭や地域における備えについて)

P3 参照

大雨時にとるべき行動(災害のおそれがあるときの行動について)

P5 参照

●八戸市洪水ハザードマップに掲載している災害の情報

洪水浸水想定区域

国土交通省青森河川国道事務所または青森県が作成した想定しうる最大規模の降雨による浸水想定区域を掲載しています。また、参考情報として、規模は小さいがより発生確率が高い計画規模の降雨による浸水想定区域を掲載しています。

〈想定最大規模の降雨による浸水想定区域〉

河川名	指定年月日、告示番号	指定の前提となる降雨	作成主体
馬淵川下流	H29.1.20、国土交通省 東北地方整備局告示第10号	馬淵川流域の2日間の総雨量 317mm (1000年以上に一度程度の確率)	国土交通省 東北地方整備局 青森河川国道事務所
馬淵川中流	H30.10.22、青森県告示第719号		青森県 県土整備部 河川砂防課
浅水川			
新井田川		新井田川流域の2日間の総雨量 558mm (1000年以上に一度程度の確率)	
奥入瀬川	H31.1.23、青森県告示第38号	奥入瀬川流域の12時間の総雨量 303mm (1000年以上に一度程度の確率)	
五戸川	R元.7.24 青森県告示第215号	五戸川流域の2日間の総雨量 438mm (1000年以上に一度程度の確率)	

〈計画規模の降雨による浸水想定区域〉

河川名	指定年月日、告示番号	指定の前提となる降雨	作成主体
馬淵川下流	H29.1.20、国土交通省 東北地方整備局告示第10号	馬淵川流域の2日間の総雨量 165mm (100年に一度程度の確率)	国土交通省 東北地方整備局 青森河川国道事務所
馬淵川中流	H30.10.22、青森県告示第719号		青森県 県土整備部 河川砂防課
浅水川			
新井田川			
奥入瀬川	H31.1.23、青森県告示第38号	奥入瀬川流域の12時間の総雨量 128mm (50年に一度程度の確率)	
五戸川	R元.7.24 青森県告示第215号	五戸川流域の2日間の総雨量 162mm (30年に一度程度の確率)	

土砂災害警戒区域等

平成30年3月現在の公表資料をもとに、土砂災害警戒区域ならびに土砂災害特別警戒区域を掲載しています。

2 災害発生のしくみ

●大雨の発生

水害や土砂災害は、大雨を原因として発生することが多く、気象予報などに注意が必要です。

〈台風の接近や前線の停滞による大雨〉

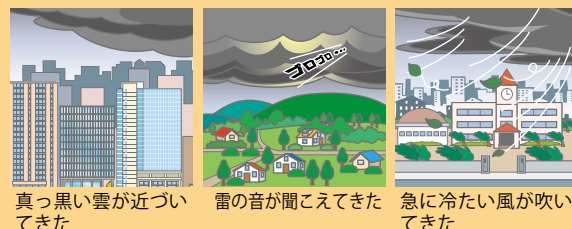
・長時間にわたり大量の雨が降ることが多く、土砂災害や河川の氾濫の原因となります。

台風や前線による大雨は、降る時期や範囲をある程度予測することが可能であり、事前の準備や早目の避難により災害を予防したり被害を軽減することが可能です。

〈局地的大雨(いわゆるゲリラ豪雨)〉

・積乱雲の発達などにより短時間に大量の雨が降り、氾濫や土砂災害の危険性が急激に高まる場合があります。積乱雲が近づいてきたら、川や低い場所からすぐに離れましょう。

積乱雲が近づくサイン



真っ黒い雲が近づいてきた

雷の音が聞こえてきた

急に冷たい風が吹いてきた

●水害の発生

水害は、大きく外水氾濫と内水氾濫に分類されます。

外水(がいしい)氾濫と内水(ないすい)氾濫

外水氾濫(馬淵川、新井田川、浅水川、五戸川、奥入瀬川)

【発生の仕方】

大雨により河川の水位が上昇し、堤防が決壊したり、堤防を越えて水があふれ出す現象です。



【特徴】

- ・周辺で雨が降ってなくても、上流域で降った雨により氾濫する場合があります。
- ・降雨状況や河川水位から、比較的発生を予測することが可能です。

内水氾濫

【発生の仕方】

排水能力を超える雨により、排水路から水が溢れたり、逆流して浸水する現象です。



【特徴】

- ・局地的に集中的な降雨(いわゆるゲリラ豪雨)が発生すると、短時間の降雨であっても内水氾濫が発生する場合があります。
- ・警報などが発令されていない状況でも発生する場合があります。

土砂災害の種類

土石流

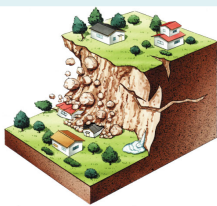


山腹や川底の石、土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流される現象です。

土石流の前兆現象

- ・山鳴りがする
- ・急に川の水が濁り、流木が混ざり始まる
- ・腐った土の匂いがする
- ・雨が降り続けているのに川の水位が下がる
- ・立木がさける音や石がぶつかり合う音が聞こえる

がけ崩れ



斜面の地表に近い部分が、雨水の浸透や地震等でゆるみ、突然、崩れ落ちる現象です。

がけ崩れの前兆現象

- ・がけにひび割れができる
- ・小石がパラパラと落ちてくる
- ・がけから水が湧き出る
- ・湧き水が止まる
- ・湧き水が濁る
- ・地鳴りがする

地すべり



斜面の一部あるいは全部が地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象です。

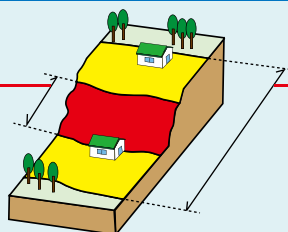
地すべり前兆現象

- ・地面がひび割れたり陥没したりする
- ・がけや斜面から水が噴き出す
- ・井戸や沢の水が濁る
- ・地鳴り・山鳴りがする
- ・樹木が傾く
- ・亀裂や段差が発生する

土砂災害警戒区域と特別警戒区域

土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)

土砂災害が発生した場合に、建物等に損壊が生じ住民等の生命または身体に著しい危害が生じるおそれがある区域



土砂災害警戒区域(イエローゾーン)

土砂災害が発生した場合に、住民等の生命または身体に危害が生じるおそれがある区域

3 日頃から災害に備える

3-1. 家族で防災に取り組む

この冊子や洪水ハザードマップを参考に、家族で万一の際の避難場所、連絡先などを確認しましょう。

家族で防災会議



家族の防災会議 ○月○日

時間帯(学校、勤務中)ごとの対応は？

市外(勤務先など)のハザードマップは？

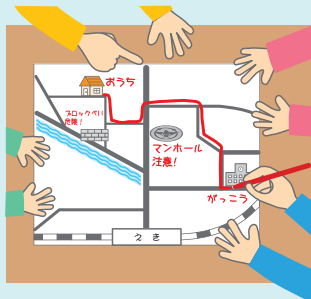
離ればなれになった場合の自宅以外の集合場所は？

連絡手段は？

洪水ハザードマップを確認して、避難経路を書き込んだり、実際に避難場所まで歩いてみましょう。

机上で確認

- 自宅や学校、職場などを探してみましょう。
- 自分の地区の避難所を見つけましょう。
- 避難経路を想定してみましょう。



現地で確認

マップを片手に、実際の避難経路を歩いて、距離感や時間を体感してみましょう。

歩きながら、途中に危険な箇所がないか、高い場所や逃げ込めそうな場所はあるかなど、調べてみましょう。



●非常持ち出し品、備蓄品の準備

各家庭の事情に合わせて、いざという時に必要なものを予め準備しましょう。

食料

- ☐ 飲料水 (一人1日3リットルを目安)
- ☐ 非常食 (缶詰、乾パン、レトルト食品など)
- ☐ 粉ミルクとほ乳瓶(赤ちゃんがいる場合)



救急・安全対策用品

- ☐ 常備薬(胃腸薬、風邪薬など)
- ☐ 包帯、ガーゼ、ばんそうこう
- ☐ 持病のある方の薬
- ☐ ヘルメット、防災ずきん
- ☐ 地図(洪水ハザードマップ等)



衣類など

- ☐ 衣類(厚手の物と薄い物)
- ☐ 下着類
- ☐ タオル、毛布
- ☐ 手袋、軍手
- ☐ 寝袋
- ☐ 雨具



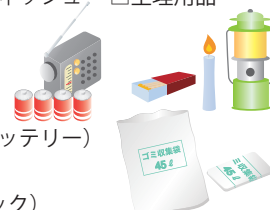
貴重品

- ☐ 現金(小銭)
- ☐ 預貯金通帳、印鑑
- ☐ クレジットカード類
- ☐ 健康保険証、免許証など



日用品など

- ☐ ポリ袋(ビニール袋)
- ☐ 新聞紙
- ☐ ろうそく、ライター
- ☐ ナイフ、缶きり
- ☐ ティッシュペーパー
- ☐ ウエットティッシュ
- ☐ 懐中電灯
- ☐ 携帯ラジオ
- ☐ 携帯電話(充電器、バッテリー)
- ☐ 筆記用具(油性マジック)
- ☐ 洗面用具
- ☐ メガネ
- ☐ マスク
- ☐ 使い捨てカイロ
- ☐ 紙おむつ
- ☐ 生理用品



3 日頃から災害に備える

3-2. 地域で防災に取り組む

●地域自主防災組織の活動について

■自主防災組織の活動に参加しましょう

自主防災組織とは、「自分たちの地域は自分たちで守る」という意識のもと、自主的に協力して防災活動を行う組織です。市では自治会などを中心に結成されています。お住まいの地域に自主防災組織があれば、積極的に活動に参加し、地域で防災活動に取り組みましょう。

自主防災組織の活動例

日常の活動

- 防災知識の普及
- 防災資機材などの整備
- 防災巡視・防災点検
- 要配慮者への対応
- 防災訓練の実施



災害時の活動

- 情報の収集・伝達
- 被害状況の確認・報告
- 避難誘導
- 救助・救出活動
- 安否確認
- 協働による避難所の開設・運営



市では、自主防災組織への支援として、出前講座や防災用資機材の購入補助を行っています。

【お問い合わせ先】八戸市 市民防災部 防災危機管理課 TEL:0178-43-9225

●八戸市消防団 ～大切な人、大切なまちを守る消防団～

消防団員は、地域における消防防災のリーダーとして、平常時・非常時を問わずその地域に密着し、市民の安心・安全を守るという重要な役割を担っています。

火災や大規模災害発生時に自宅や職場から現場に駆けつけ、消火活動や人命救助、避難誘導などの消防活動に従事しています

八戸市消防団は1本部23分団、消防団長以下約1,300名で組織され、市全域が管轄区域となっており、それぞれの町ごとに分団が配置されています。

消防団員を募集しています。

入団を希望される方は、八戸広域消防本部 警防課(TEL:0178-44-2134)へお問い合わせください。

●災害時に支援が必要な人をみんなで支えましょう

市では、地震や豪雨が発生したとき、自力では避難できない重度の障がい者や介護が必要な人(災害時要援護者)が、地域の支援を受けて避難できる仕組みづくりを進めています。支援を希望する人は、あらかじめ市で作成する名簿への登録が必要です。災害時の迅速な避難を支援し、安全を確保する体制を整えるには、地域の皆様のご協力が不可欠です。災害時要援護者の支援にご協力をお願いします。

災害時要援護者名簿への登録を希望される方は下記へお問い合わせください。

【登録のお申込み・お問い合わせ先】

八戸市 福祉部 福祉政策課 TEL:0178-43-2111 (内線5013~5015)



4 大雨時に取るべき行動

4-1. 状況に応じ、自主的に避難行動をとる

さまざまな機関から提供される防災情報や周辺の状況を確認して、少しでも危険性を感じたら、早めの避難を検討しましょう。

災害発生が予測される状況



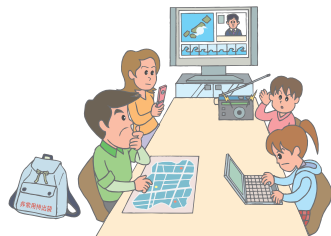
災害発生の危険性が高まっている状況



災害発生



テレビやラジオ、インターネットで情報を収集



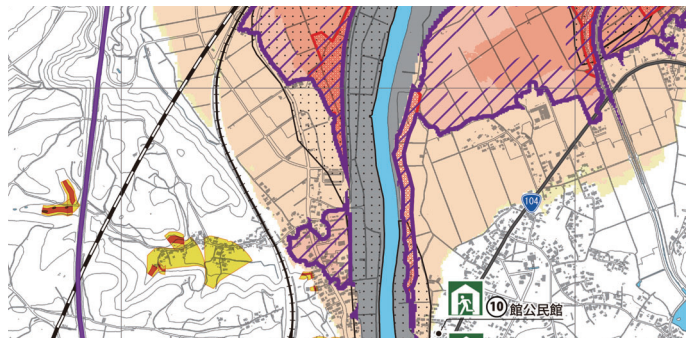
警戒レベルと災害時にとるべき行動 →P7

防災情報を入手しましょう →P9

警戒レベルに相当する防災情報 →P10

洪水ハザードマップで立退き避難が必要か確認する

洪水ハザードマップには、想定浸水深が3m以上または家屋倒壊等氾濫想定区域に該当する区域を、早期立退き避難が必要な区域として掲載しています。また、土砂災害（特別）警戒区域内も、早期立退き避難が必要な区域です。自宅が、早期立退き避難が必要な区域かを確認しましょう。



区域等	
早期立退き避難が必要な区域	家屋が水没するおそれのある区域（想定浸水深3.0m以上）
	家屋倒壊等氾濫想定区域
その他の浸水想定区域（想定浸水深3m未満）	
0.5～3.0m未満	
0.5m未満	
土砂災害警戒区域	土砂災害のおそれがある区域
土砂災害特別警戒区域	土砂災害警戒区域のうち、建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域

避難は、早期の立退き避難が基本です。

避難は、浸水想定区域外の指定避難所等の安全な場所へ移動する「立退き避難」が基本です。ただし、

- ・ 浸水想定区域外への避難が間に合わない場合は、浸水想定区域内の指定緊急避難場所の避難可能階への避難。
- ・ 氾濫がすでに始まっている場合など、指定緊急避難場所への移動がかえって危険な場合は、近隣のより安全な場所への避難。
- ・ 周囲の状況から外出することすら危険な場合には、自宅の2階等へ避難する屋内安全確保。

の各行動をとります。

「早期立退き避難が必要な区域」では、洪水時に家屋を倒壊させるような激しい流れが発生したり、浸水深が3m以上となるなど、とどまることで被害にあう可能性がありますので、避難情報にしたがって速やかに安全な場所に避難してください。



災害の危険性が終息



自宅で生活が難しいとき



指定避難所

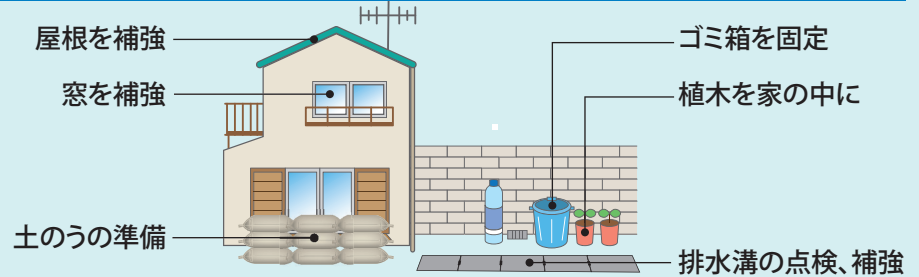


4 大雨時に取るべき行動

4-2. 自宅滞在時に取るべき行動

事前の備え

- ハザードマップで避難場所など確認
- 気象・台風情報の収集
- 非常持出品、備蓄品の準備



家屋の浸水を軽減するには

ご家庭にある物を使って家屋への浸水流入を防ぎましょう。玄関などの出入口のみならず、床下への浸水の防止も重要です。

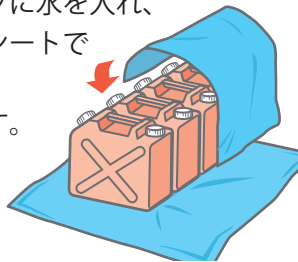
ごみ袋による簡易水のう

ごみ袋を二重にし、半分程度水を入れ、レジャーシートで巻き込み、ダンボール箱に入れ連結します。



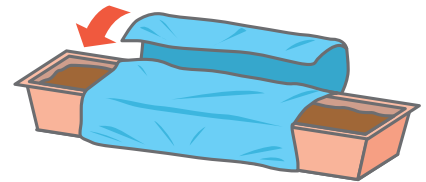
ポリタンクとレジャーシート

ポリタンクに水を入れ、レジャーシートで巻き込み連結します。



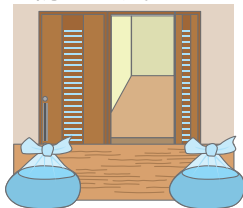
プランターとレジャーシート

土を入れたプランターを、レジャーシートで巻き込み使用します。



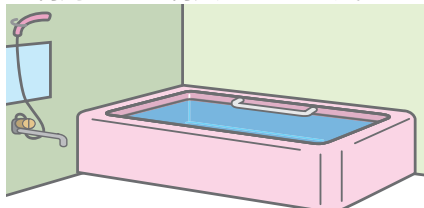
止水板

出入り口は長めの板などを使用し、浸水を防ぎます。



風呂の貯水

下水の逆流防止、生活用水としての利用などの利点があります。



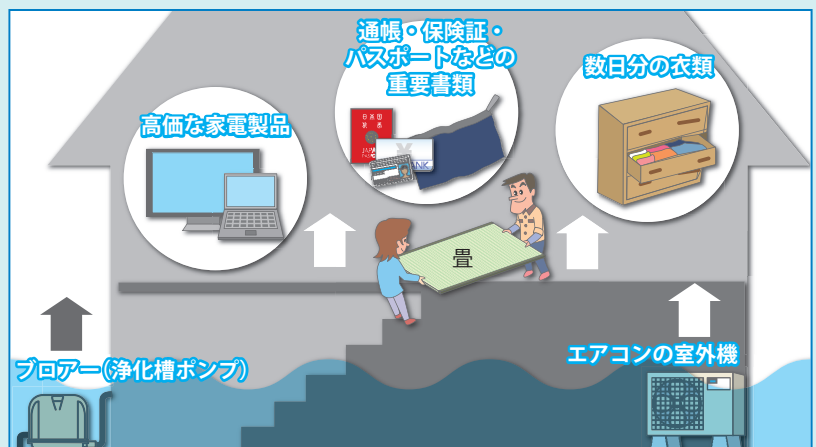
トイレや洗濯機などの排水溝

水をいれたビニール袋をおいておくと排水溝から逆流してくる泥水を防げます。



家財を高い場所に移動しましょう

- 水害による家財被害を軽減するため、家財を2階などの高いところへ上げましょう。
- ブローアやエアコンの室外機はあらかじめ高い場所に設置しましょう。



4 大雨時に取るべき行動

4-3. 警戒レベルと災害時にとるべき行動

平成30年7月に発生した西日本豪雨を教訓に、国は災害のおそれが高まった場合に住民の皆さんが適切な避難行動をとれるよう、災害発生の危険度と避難行動を促す情報を「5段階の警戒レベル」でお知らせすることになりました。

市では、避難のタイミングとなる避難情報を、ほっとスルメール、テレビ、ラジオなどを通じてお知らせします。災害に備え、警戒レベルと各段階でとるべき行動をチェックしましょう。

警戒 レベル	避難情報等 (必要に応じ、市が発令します)	住民が取るべき行動	住民が自ら行動をとる際の判断に参考となる情報(警戒レベル相当情報)	
			水位情報がある場合(洪水)	水位情報がない場合(洪水)
警戒 レベル 5	災害発生情報 ※可能な範囲で発令	災害がすでに発生しており、命を守るための最善の行動をとる	氾濫発生情報	大雨 特別警戒
警戒 レベル 4	避難指示(緊急) 避難勧告	危険な場所から全員避難 災害が発生するおそれが極めて高い状況等となっており、指定避難所等への立退き避難を基本とする避難行動をとってください。	氾濫危険情報 (氾濫危険水位到達時)	気象庁ホームページ 「洪水警戒の危険度分布」など (極めて危険) 気象庁ホームページ 「洪水警戒の危険度分布」など (非常に危険)
警戒 レベル 3	避難準備・ 高齢者等避難開始	危険な場所から高齢者等は避難 避難に時間を要する高齢者等は、速やかに立退き避難を開始してください。また、その他の方も立退き避難の準備をし、自発的に避難してください。	氾濫警戒情報 (避難判断水位到達時など)	・洪水警戒 気象庁ホームページ 「洪水警戒の危険度分布」など (警戒)
警戒 レベル 2		ハザードマップ等で 避難行動を確認	氾濫注意情報 (氾濫注意水位到達時など)	気象庁ホームページ 「洪水警戒の危険度分布」など (注意)
警戒 レベル 1		災害への心構えを高める		

～わが家のマイタイムラインを作成しておきましょう～

日頃から、洪水リスクを把握しあわてずに逃げる準備を整えて、状況に応じて逃げ始めることが重要です。いざというときにあわてずに行動するために、警戒レベルごとに何をするのかを『わが家のマイタイムライン』を作成しておきましょう。

警戒レベル1の時、わが家は	
警戒レベル2の時、わが家は	
警戒レベル3の時、わが家は	
警戒レベル4の時、わが家は	
警戒レベル5の時、わが家は	

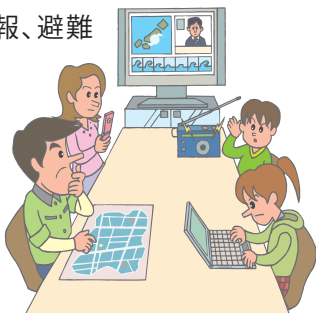
4 大雨時に取るべき行動

4-4. 避難の心得

避難を行う際にもいろいろな危険が潜んでいます。十分注意して、あわてず、すみやかに避難しましょう。

正確な情報収集と早めの避難

テレビ、ラジオ等で最新の気象情報、災害情報、避難情報に注意し、危険を感じたら早めの避難をすることが重要です。



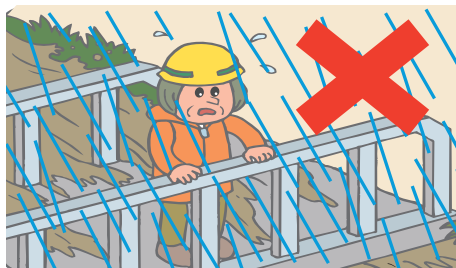
動きやすい格好で避難

動きやすい服装で、必要最小限の荷物で避難しましょう。



安全な経路で避難

河川や水路などには、近づかないようにしましょう。



夜間を避けて早めの避難

夜間の避難は、周りの状況が確認しにくく、非常に危険です。可能な限り暗くなる前に避難しておきましょう。



履きなれた動きやすい靴を履きましょう

長靴はぬげる危険があります。



氾濫水は勢いが強い

氾濫水は、勢いが強く水深が膝程度あると大人でも歩くのが困難です。緊急避難として、高い堅牢な建物にとどまることも選択肢の一つです。



避難の際は車の使用を控えましょう

渋滞に巻き込まれたり、浸水の影響で走行が困難になることがあります。



水の中の障害物に注意しましょう

やむを得ず水の中を移動するときは、棒で足下を確認しながら移動しましょう。



4 大雨時に取るべき行動

4-5. 防災情報入手しましょう

種 類	概 要	
気象情報	テレビ・ラジオ	①NHKデータ放送 リモコンのdボタンを押し、NHKデータ放送『防災・生活情報』などで確認ができます。
	インターネット パソコン スマートフォン	②気象庁 https://www.jma.go.jp/ 
	電 話	③青森地方気象台 電話:017-741-7459 (自動応答・24時間対応)
洪水情報 土砂災害 情報	テレビ・ラジオ	①NHKデータ放送 リモコンのdボタンを押し、NHKデータ放送『防災・生活情報』などで確認ができます。
	メー ル	④緊急速報メール<登録不要> ⑤ほっとスルメール 市からの大雨や土砂災害の情報をメールで入手できます。 2次元コードを読み取って空メールを送信するか、 anzenjoho@anshin.city.hachinohe.aomori.jp に空メールを送信 
		⑥青森県河川砂防情報提供システム 河川の水位情報、雨量情報、洪水予報、氾濫警戒情報 登録方法 パソコン: http://www.kasensabo.bousai.pref.aomori.jp/ 携帯電話: http://www.kasensabo.bousai.pref.aomori.jp/mobile/ スマートフォン: http://www.kasensabo.bousai.pref.aomori.jp/smart/  
		⑬気象庁(大雨警報【土砂災害】)の危険度分布(土砂災害警戒判定メッシュ情報) https://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/index.html
	インターネット パソコン スマートフォン	⑭気象庁 洪水警報の危険度分布 https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/flood.html
		⑥青森県河川砂防情報提供システム 河川の水位情報、ライブカメラ映像 http://www.kasensabo.bousai.pref.aomori.jp/index.html 
		⑦青森県土砂災害警戒情報システム 土砂災害警戒情報 https://www.dosya-keikai.pref.aomori.jp/ 
		⑧川の水位情報(危機管理型水位計) パソコンやスマートフォンの画面で水位情報を確認できます。 https://k.river.go.jp
		⑨川の防災情報 水害・土砂災害"情報のマルチモニタ https://www.river.go.jp/portal/#80
	電 話	③青森地方気象台 注意報、警報 電話:017-741-7459 (自動応答・24時間対応)
		⑩土砂災害の恐れがあるときの連絡先 前兆現象を見つけたら、下記にご連絡をお願いします。 八戸市:電話(代表) 0178-43-2111 (現地警戒:港湾河川課 避難情報等:防災危機管理課)
避難情報	テレビ・ラジオ	①NHKデータ放送 リモコンのdボタンを押し、NHKデータ放送『防災・生活情報』などで確認ができます。 避難勧告等発令状況、開設避難所、各水位観測所水位情報
	メー ル	④緊急速報メール<登録不要> (市からの避難情報等) ⑤ほっとスルメール(メールアドレス、2次元コードは洪水情報をご覧ください。)
		⑪八戸市ホームページ https://www.city.hachinohe.aomori.jp/
	広報車 防災行政無線 電 話	⑫防災行政無線の放送内容を電話で確認できます。 市内固定電話からは0800-800-7244(通話料無料) 市外固定電話・携帯からは0178-45-1860

4 大雨時に取るべき行動

4-6. 警戒レベルに相当する防災情報

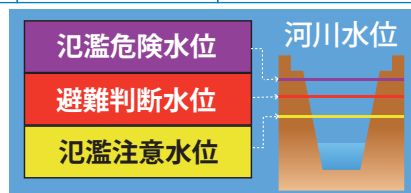
洪水に関する情報（情報の入手先は、P9の表参照：①、⑥、⑧、⑨）

次の河川（水位局）ごとに洪水の危険度に応じて水位が設定されており、避難情報発令の目安とされています。

河川水位	河川名	水位局名	水防団待機水位(m)	氾濫注意水位(m)	避難判断水位(m) (警戒レベル3相当)	氾濫危険水位(m) (警戒レベル4相当)
	馬淵川	櫛引橋(国)	3.00	4.00	6.70	6.90
	馬淵川	櫛引橋上流	1.20	2.10	3.20	4.40
	新井田川	新井田	3.20	3.50	4.20	4.45
	新井田川	島 守	2.30	2.60	3.45	3.80
	浅水川	桜 沢	1.40	1.90	2.10	2.52
	五戸川	尻 引	4.70	5.00	5.30	5.70
	五戸川	川原町	1.60	1.90	3.40	3.70
	奥入瀬川	百 石	3.50	3.80	6.90	7.30
	奥入瀬川	鶴 喰	3.60	3.90	6.60	7.10

避難判断水位は、警戒レベル3「避難準備・高齢者等避難開始」を発令する目安となる水位です。

氾濫危険水位は、警戒レベル4「避難勧告」を発令する目安となる水位です。



洪水警報の危険度分布（情報の入手先は、P9の表参照：⑭）

洪水警報の危険度分布は、洪水警報を補足する情報です。洪水警報等が発表されたときに、どこで危険度が高まるかを面的に確認することができます。3時間先までの流域雨量指数の予測値が洪水警報等の基準値に到達したかどうかで、危険度を5段階に判定し、色分け表示しています。



色が持つ意味	住民等の行動の例	内閣府のガイドラインで発令の目安とされる避難情報	相当する警戒レベル
極めて危険 すでに警報基準を大きく超過した基準に到達	流域雨量指数の実況値が過去の重大な洪水発生時に匹敵する値にすでに到達。重大な洪水害がすでに発生しているおそれが高い極めて危険な状況。	—	—
非常に危険 3時間先までに警報基準を大きく超過した基準に到達すると予想	水位周知河川・その他河川がさらに増水し、今後氾濫し、重大な洪水害が発生するおそれが高い。水位が一定の水位を越えている場合には速やかに避難を開始する。	避難勧告	4相当
警戒 (警報級) 3時間先までに警報基準に到達すると予想	水位が一定の水位を越えている場合には、避難の準備が整い次第、避難を開始する。 高齢者は速やかに避難を開始する。	避難準備・高齢者等避難開始	3相当
注意 (注意報級) 3時間先までに注意報基準に到達すると予想	ハザードマップ等により避難行動を確認する。 今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に注意する。	—	2相当
今後の情報等に留意	今後の情報や周囲の状況、雨の降り方に留意する。	—	—

4 大雨時に取るべき行動

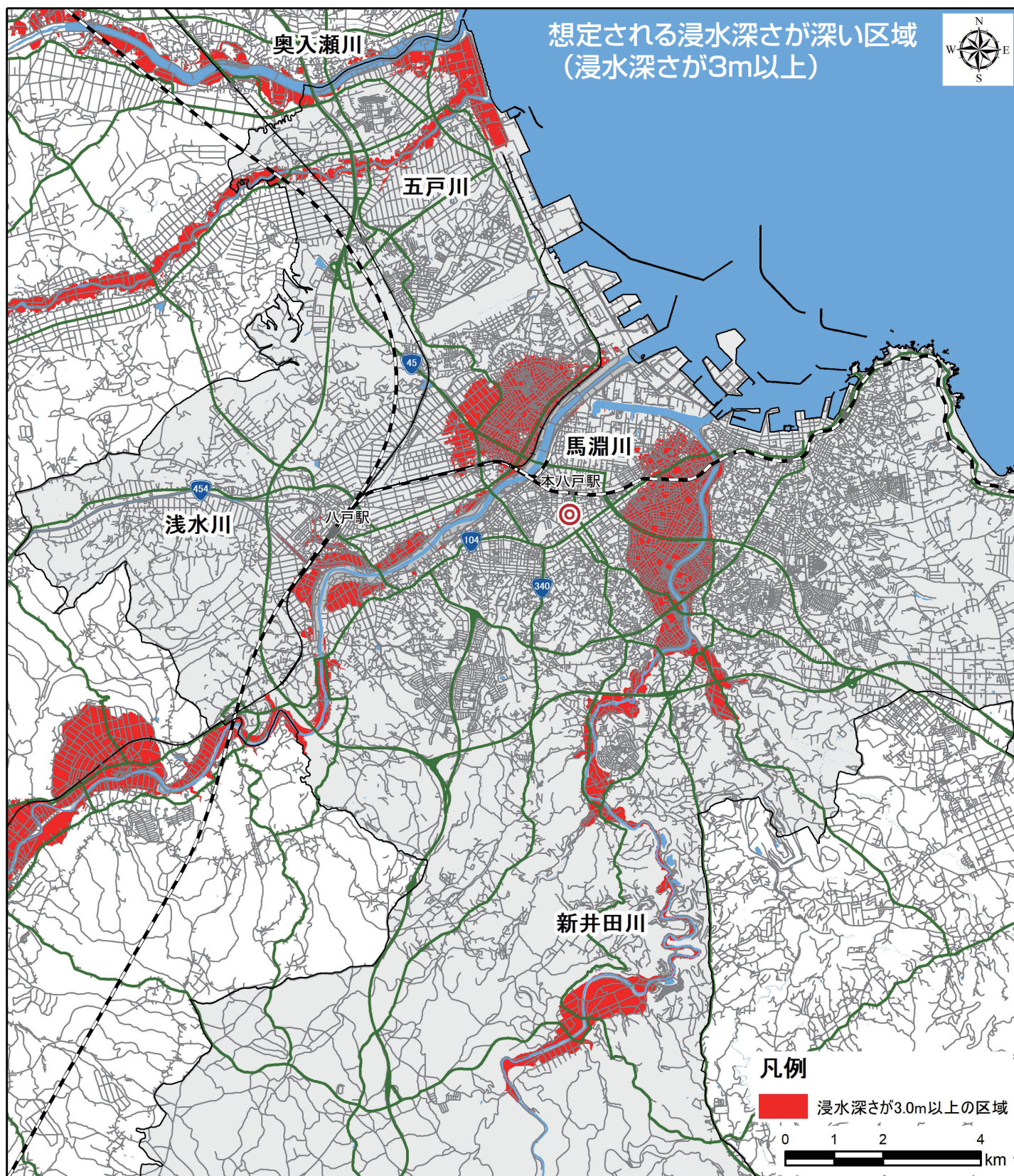
4-7. 早期に立退きが必要となる区域

次のような区域にお住まいの方は、万一、浸水が発生した場合に逃げ遅れや孤立の危険性があるため、早期に立退き避難を検討する必要があります。

八戸市洪水ハザードマップでは、これらの区域に係る範囲を“早期に立退き避難が必要な区域”として表示していますので、事前にその範囲を確認し、お住まいの地域が該当する場合には早期の立退き避難を心掛けましょう。

●想定される浸水深さが深い区域

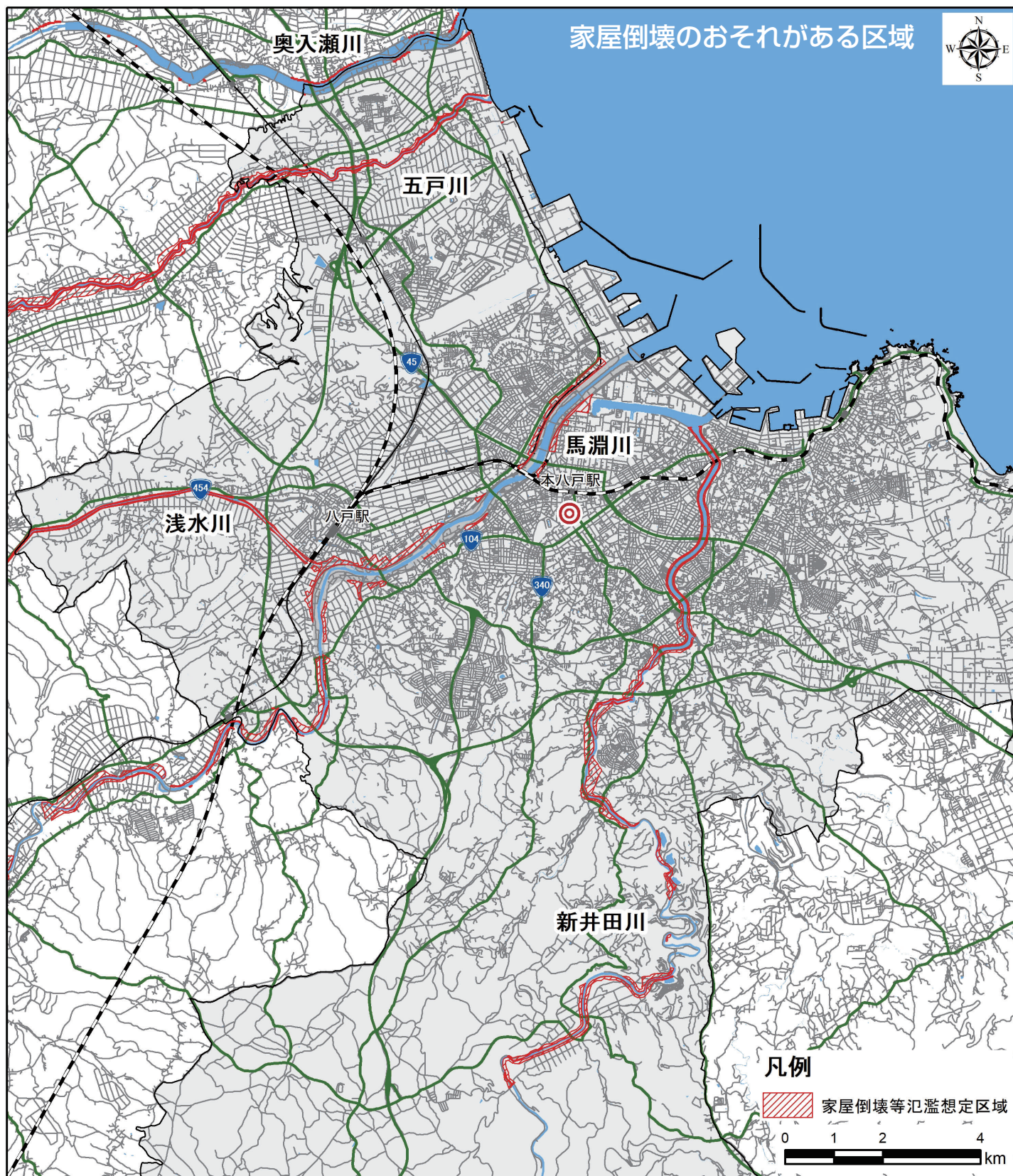
想定される浸水深さが3mを越える区域では、一般的な住宅において2階部分も浸水のおそれがあり、平屋建ての建物にお住まいの方は浸水が始まる前に避難を行う必要があります。



4 大雨時に取るべき行動

●家屋倒壊等氾濫想定区域

河川が決壊した際に氾濫流により家屋が倒壊・流出したり、河岸侵食が発生したりするおそれのある区域では、家にとどまることにより被害を被るおそれがあります。



わが家の防災メモ いざというときに備えて家族の名前や連絡先(学校、勤務先)などを書き込んでおきましょう。

なまえ		携帯電話	
連絡先		備考	
なまえ		携帯電話	
連絡先		備考	
なまえ		携帯電話	
連絡先		備考	
なまえ		携帯電話	
連絡先		備考	

家族で決めた避難先、避難経路を書いておきましょう

緊急連絡先

名 称	電 話 番 号

名 称	電 話 番 号

災害用伝言ダイヤル 171 災害用伝言ダイヤル171は、災害時にNTTより提供される「声の伝言板」です。

伝言の録音

1 7 1 → 1 → 被災した家の電話番号 → **伝言を入れる**
(30秒以内)

ガイダンス(説明)がながれます。被災者は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の方の電話番号を市外局番からプッシュする。

伝言の再生

1 7 1 → 2 → 被災した家の電話番号 → **伝言を聞く**

ガイダンス(説明)がながれます。被災者は自宅の電話番号を、被災地以外の方は被災地の方の電話番号を市外局番からプッシュする。

- ※サービス開始は、NTTのホームページ、テレビ・ラジオなどで通知されます。
- ※災害時、緊急でない電話はなるべく控えましょう!

災害用伝言板 web171 災害用伝言板web171は、インターネットでできる災害用伝言版です。

自分の安否状況を登録することができ、登録された安否情報はインターネットなどを通じて、家族や友人などが確認できる災害時専用のサービスです。

また、あらかじめ指定した家族や友人に対して、災害用伝言板に登録したことをメールでお知らせすることも可能です。

URL <https://www.web171.jp>

